

「聖書が教える職場関係」  
エフェソの信徒への手紙 6章 5-9 節

2024.6.2

●アウトライン

1. 真心を込めて働く

- ・「奴隷制」について

【墮落した社会】 → (奴隷制) → 【終末の神の国】 (自由)

- ・主にあって自由の身として、「肉による主人」に従う。
- ・「恐れおののき、真心を込めて」とは。
- ・人にではなく主に仕えるように、善意をもって仕える。
- ・人の評価とその報いに目を向けるのではなく、神の評価とその報いに目を向ける。

2. 人の背後にいる神を恐れる

- ・「同じように奴隷を扱いなさい」とは。
- ・「彼らを脅すのはやめなさい」
- ・すべての人には、その背後に、その人を造り、愛しておられる天の神がいる。
- ・人を傷つけたら、必ずその報いが神から返ってくる。
- ・すべての人を神に造られた尊い存在として見るとき、良い人間関係は作られていく。

●聖書箇所

【ガラテヤの信徒への手紙 3章 26-28 節、新約 346-347 ページ】

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」

【マタイによる福音書 6章 1,3-4 節、新約 9 ページ】

「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。……施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」

【コリントの信徒への手紙二 5章 10 節、新約 330 ページ】

「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならないからです。」